

主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアムに所属する学生チームが作成したインタビュー記事を紹介しします。今回は第2回、Bチームの記事紹介です！

Bチーム

高崎経済大学、桐生大学、県立女子大学等の多様な大学の学生でチームが組まれています。グループのテーマは「県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想」に関する事で、県職員インタビューは群馬県庁の「都市整備課都市プロジェクト推進室」に、議員インタビューは薬丸県議に行いました。



◎第2回は、Bチームの県職員インタビュー記事、そして県議会議員インタビューの記事を添付しますので、是非ご覧ください！

県内市町村の選挙情報

選挙の種類	告示日	投票日	関連QRコード
富岡市長選挙	4月5日（日）	4月12日（日）	

県庁〈前橋駅クリエイティブシティ

構想について

Bグループ

「インタビュー先」

県土整備部 都市整備課

都市プロジェクト推進室 事業推進係

「担当職員」久保田係長、叶主任

「担当」高崎経済大学 四年 村上 未空

高崎経済大学 三年 高安 ひより

群馬県立女子大学 三年 辻元 彩夏



Q 県庁〈前橋駅クリエイティブシティ構想の目指す姿に「この構想デザインでは、メインストリートを公共交通と人中心のウォークアブルな道路空間に変貌させ、賑わいとふれあいを創出し、将来に向けて住民や訪問者が夢や希望を抱き続けることができるよう、群馬県らしい独自の価値を創造することを目指します（群馬県庁ホームページ）」と記されていますが、この場合の群馬県らしい独自の価値とは何ですか。

地域に同じ場所はなく、その土地にしかない文化や風景があります。前橋周辺は高い建物が少なく、周りがよく見えるのが特徴です。また、ケヤキ並木や「水と緑と詩のまち」と言われるような景観や文化があります。そのような景色・景観、文化をデザインに取り入れている点が、群馬県らしさを表しています。

また、交通量の多い通りをトランジットモールにするという構想自体も、全国的に見てもほとんど例がなく、これも群馬県独自の価値であると考えています。

Q 最近行政主体のまちづくりから民間や市民・県民の方が自分ごととしてまちづくりを考えることが重要視されていますが、そのメリットとデメリットを教えてください。

メリットは、行政にはない柔軟な発想を取り入れることができることと、継続的な活動が期待できることだと思います。計画段階から関

ってもらえると、関心や参加意欲が高まり、持続可能なまちづくりにつながります。

一方でデメリットは、無関心層の声を拾いにくくなってしまう点です。

Q 民間や市民が関わるまちづくりにどのようなことを期待していますか。

クリエイティブシティ構想の目的は、新たな道路空間を整備することだけでなく、周辺や沿道の賑わいを取り戻すことです。市民や民間企業と連携しながら、地域が活性化していくことを期待しています。

また、歩いて楽しい街を実現したいと考えています。何もない道を一キロメートル歩くところらしく感じますが、沿道に様々なお店や緑があると、楽しく歩くことができると思います。そのような街を皆さんと一緒につくっていききたいと思っています。

Q 群馬県は車社会ですが、どうしてこのような構想が挙げたのですか。車に親しんでいる群馬県民を公共交通機関や徒歩で移動してもらうための意識付けとして、どのようなことをしていますか。

人口減少、少子高齢化が進む中で、将来のまちのあり方を見据えた取り組みが必要だからです。将来の道路はどうあるべきか、将来の移動がどう変わっていくかを想像しながら、賑わいを取り戻すことを目的としています。意識付け

としては、県庁前の道路において、将来のトラ
ンジットモータリ化に向けて一般車両の通行を制
限する社会実験を行っています。

Q民間企業と連携することによって現時点で得
られた双方の利点について教えてください。

行政側としては、民間の新しい柔軟な発想や
技術力を得られる点が大きいです。都市整備課
の職員は道路の専門家であり、道路法令に従っ
た行政運営は得意ですが、どうしても限界があ
ります。

民間側の利点としては、行政に取り組みを認
めてもらうことで企業価値が向上する点があり
ます。また、まちの賑わいが増えることで「エ
リア価値」が向上し、そこに位置する企業にと
っても有利になります。例えば、人通りが増え
ることでお店の売り上げが増えたり、地価の上
昇などが期待できます。

Q八月下旬に開催された「まちづくりウィーク」
に実際に参加した人の意見の中で着想を得た
ことはありましたか。

まちづくりウィークには幅広い世代の方々
参加してくれました。住民だけでなく店舗や企
業の経営者の方々からも多くの意見をいただき
ました。参加者からは、「歩きやすさの向上」「安
心して過ごせる空間の創出」「訪れたいくなる場所
にしてほしい」などの要望が多く寄せられまし
た。「夏の暑さや冬の風対策など、快適に過ごせ

る空間にしてほしい」「前橋の歴史や文化を活か
したデザインにほしい」といった意見もありま
した。これらの意見も取り入れながら、今後構
想のデザインをアップデートしていく予定です。

Q県職員の方は大体三年で部署を異動になるこ
とが多いと聞きましたが、どのように適応し
ていますか。また、部署異動が多いからこそ
の楽しさを教えてください。

新しい担当分野の勉強も大切ですが、元々そ
の部署にいる人もいるので、丁寧に教えてくれ
ます。二・三ヶ月もすれば慣れてくるので、そ
れほど心配しなくても大丈夫だと思います。

Q県庁から外部機関に派遣される職員の方は、
どこに派遣されることが多いですか。

土木職の職員が多い県土整備部では、災害派
遣として被災地の自治体に行く職員が多いです。
事務職では、関係省庁や民間企業への派遣があ
ります。近年、群馬県庁では民間企業に派遣さ
れる職員が増えています。

Qチームで働く機会が多いですか。

多いです。現在の仕事では、一つのプロジェ
クトを3人で担当しています。窓口業務など個人
で行う場合もあれば、係全体で取り組むこともあ
り、部署によって様々ですが、チームで行う仕事
の方が多いです。

【編集後記】インタビューを終えて

○自分は令和八年の四月から地元の市役所で働く
予定なのですが、今回のように実際に公務員の方
とお話することができ、とても貴重な機会にな
りました。今後の業務で活かす機会があると良い
なと思います。(村上)

○街づくりの構想は、今現在ではなく、将来を見
据えて進められていると感じました。県職員の方
に業務内容や働き方について詳しくお話を伺う機
会は大変貴重で、良い経験になりました。(高安)

○構想やプロジェクトは、県職員主導のように感
じていましたが、実際にはコンペによって選定し
たり、地域の住民や経営者などの意見を反映する
など県民の意見を尊重していました。選挙以外の
場面においても「民主性」が成り立っていること
を実感することができました。(辻元)

(実施日…令和七年九月二十九日)

「インタビューした人」

薬丸潔 県議

【担当】

高崎経済大学 四年 村上未空
高崎経済大学 三年 高安ひより



Q どのような想いや経験から県議会議員になろうと思われたのか教えてください。

弁護士時代の経験から県議会議員になろうと思いました。当時は、建設・設備会社の破産が相次ぎ、借金を返せなくなってしまった会社の事後的な対処を弁護士として行っていました。

その中で、あまりお金を借りすぎないようにするなど、未然に防ぐ政策や教育が必要だと感じました。また、同様に児童虐待やDVなども起こってからの対処しかできないことに気づき、行政の力で未然にできる防止策を考えないといけないと感じ、県議会議員になろうと考えました。

Q 特に印象に残っている取り組みや力を入れてこられた施策についてお伺いしたいです。

色々な活動を行っていますが、その中でも特に印象に残っているのは、ドクターヘリを4つの県で連携させたことです。例えば、県内で複数の出勤要請があった時に、ドクターヘリの機数が限られているため、緊急度が高いところに行き、片方は断らざるを得ないというケースがあります。しかし、ドクターヘリは値段が高く、すぐに機数を増やすということはできません。

私の選出された太田市はすぐ隣に埼玉県や栃木県があり、この問題を解決するために、もし他県のドクターヘリが空いているならば出動することでカバーできないかと議会で提案したところ、ドクターヘリの茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県の連携が実現しました。

Q 太田強戸スマートインターチェンジの設置に尽力されたとお伺いしたのですが、設置したことで地域に生まれた変化を教えてくださいたいです。

現在、太田強戸スマートインターチェンジは一ヶ月間に6万台から7万台が出入りしています。そして、すぐ近くにさくら工業団地があるため、インターチェンジができたことにより、アクセスが向上し、物流の機能が強化されたと感じています。また、北関東自動車道は、大きな災害があると緊急輸送道路となり、物資や急病人を搬送する専用道路になります。その中で、高速道路への出入り口が一つ増えたことで、物資や急病人の搬送がしやすくなり、防災機能の向上にも繋がったと考えています。

Q 県議会議員として働かれる中で、住民の方々の様々な要望に応えることになると思いますが、その中で感じたやりがいや、困りごとがあれば教えてください。

定期的にいただくご要望として、県道沿いの植物の除草や信号機の設置、道路の舗装の依頼などがあります。県当局と掛け合って、実際に実現することができて、住民の方々に喜んでいただけることが議員として一番のやりがいです。

困りごとは、予算の関係で、除草や信号機の新設などが、私が初当選した頃（十五年前）と比べてすぐに出来なくなりました。除草は依頼を受けてから間が空くことがあります。信号機も白熱灯からLEDに変えるために予算が使われており、新設が少ないです。昔のように対応できなくなったことが、悩ましいです。

Q 若者の投票率の低さが長年、課題となつていますが、そのような中で若者に伝えたいことは何ですか。また、投票率とは関係なく若者に向けたメッセージをお願いします。

私たちの党で取り上げてきたのが、若者のがんばりです。ほぼ介護が必要な状態になつたとしても三十九才以下では介護保険制度が使えないため、費用の自己負担という問題がありました。このことに対し、県と市町村とで財政的な支援をする政策の実現をさせていただきました。

若い世代にメリットのある政策を実施している人や政党についてぜひ調べてみて欲しいです。政治の世界は国民による監視が必要です。若い世代の方にも政治を監視するという意識を持つてもらえると良いと思います。

Q 薬丸議員は太田強戸スマートインターチェンジの設置をどのような思いで進められたのでしょうか。また、街づくりに限らず、数十年後はどのような社会になっていることを望みますか。

太田市はスバルの企業城下町です。工業都市として、太田市の発展を後押ししたいという思いがあります。

数十年後のことは、人口減少社会を前提に考えていかなければなりません。人が分散して住んでいると、行政側としてもコストがかかるため、居住の地域、工業の地域、農業の地域のように地域

の役割分担を徐々に明確にしていかなければならないのではないかと感じています。

Q 太田強戸スマートインターチェンジの設置に尽力されたご経験から「県庁く前橋駅クリエイティブシティ構想」についてのご意見をお伺いしたいです。

太田強戸スマートインターチェンジは車社会、県庁く前橋駅クリエイティブシティ構想は車社会からの脱却を前提としており、大きな意識変革を促しているところが両者の相違点だと思います。

このような意識変革を促していく政策をどこかでしなければならぬと感じています。まだ構想の段階ですが、実際に動き始めると、反対する住民も出てくると思いますので、時間をかけて周知をし、慎重に進めていくことが必要だと考えています。

Q 以前行った県職員インタビューでは、無関心層の意見を拾うことが難しいとお伺いしたのですが、より多くの方の意見を取り入れるために工夫していることはありますか。

まず地元の太田で色々な団体に所属して、色々な人と交流を図ることを大切にしています。例えば、ロータリークラブや商工会議所など色々な団体に所属して、今まで会ったことがないような人と交流ができるようにしています。

また、週に一回街頭演説と辻立ちを行なっています。まずは、私という県議会議員がいると認識

してもらうことが無関心層に関心を持つてもらいきっかけになると考えています。加えて、SNSでも色々な発信をし、その際にいただいた意見をしっかりと返信するようにしており、意見交換の場として活用しています。政治に関心がないことの一つの要因に身近に県議会議員がいないからということがあると思います。なので、まずは知ってもらうという努力を議員がしなくてはいけないと考えています。

「編集後記」インタビューを終えて

県議会議員とお話する機会はなかなかないので、とても緊張しました。県議会議員の仕事や県議会議員になろうと思ったきっかけについて知ることができ、県議会議員は私たちの生活に直結している取り組みを行なっていることが分かり、政治をさらに身近に感じることができました。(村上未空)

県議会議員の方に直接お話を伺う、大変貴重な機会をいただきました。インタビューを通じて、県議会議員のお仕事が想像以上に幅広いことを実感しました。私たちの身近な困りごとに対し、真摯に耳を傾け、問題解決にご尽力されていることが伝わり、政治が生活に深く関わっていると感じました。(高安ひより)